



創立80周年東京都 小学校体育研究会会報



東京都小学校体育研究会 令和7年度 第2号 令和8年3月発行



東京都小学校体育研究会 HP

事務局：東京都日野市三沢200 日野市立日野第八小学校 TEL 042-591-2411



パートナーシップの輪 を拡げて

東京都小学校体育研究会
会長 船山 徹

本研究会では、創立80周年を迎え、数々の新たな取り組みをスタートしました。その中で、私たちは、体育の研究を進めるより多くの皆様と連携・協力し合うパートナーシップを築き、切磋琢磨しながら互いの研究を深めていきたいと考えてきました。この1年、実に多くの皆様からのお力添えをいただき、皆様と共に研究活動を進めることができました。

一番に感謝申し上げたいのが、本研究会の実証授業や発表会等にご参加くださった皆様です。今年度は、研究のすべての場において「双方向のコミュニケーション」を重視し、参加者の皆様から、数多くのご意見や、ご自身の経験に基づくご提案をいただくことができました。このことが研究の発展に直結しました。都内の各研究団体や、都外の皆様にも多数のご参加をいただきました。

また、区市町村体育部の代表者にご参加いただく理事会では、本研究会の運営に関するご意見や、各自自治体での研究活動を活性化する工夫についてご紹介をいただくなどして、連携を強化することができました。

各研究領域の代表で組織する正副部長会も本研究会の運営のパートナーとなりました。今年度は、研究活動の運営を本会に委ねました。メンバー相互に議論を重ね、より具体的な研究を目指して、試行錯誤を重ねてきました。本会が独自に企画・運営した「ICTフェス」には約300名の来場がありました。正副部長のリーダーシップのもと、10の領域部会の部員一人一人が、研究の充実に貢献しました。

本研究会の運営を担う常任理事会も、運営のための連絡・調整の場から議論する場へと転換し、共に運営の改善に努めてきました。

そして、私たちの周囲には、常に本研究会をあたたく見守り、励ましてくださる顧問・OBの皆様がいらっしゃいました。

私たちは、本研究会をこのように支えてくださる皆様や仲間たちとのパートナーシップをより一層確かなものとし、さらに多くの皆様へとその輪を拡げ、これからの体育学習の在り方を共に追求していきたいと思っております。



掲載の二次元コードから、動画メッセージや各領域部会をご覧ください。



令和7年度 研究の概要

調査研究部長
西川 幸延

1 研究主題

自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習
—運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して—

2 本研究が目指す体育の学習づくり

昨年度、本研究主題が目指す学習として、自分のペースで学習活動に取り組み、繰り返し、自己調整しながら学習を積み重ねることが必要であると捉え、教師が「子供の学びのサイクルを自ら回し続ける力を育てる」こと、子供が「学びのサイクルを自ら回し続ける力を自分自身で身に付けていく」ことができるようにしてきました。

その結果、子供主体の学習づくりとそれを支える学習環境のデザインを示すことや、全ての子供が自ら学び続けるための教師の関わり方を明確化すること、子供たち一人一人の「学びのサイクル」と「自ら学び続ける力」を身に付けることの関連性について検証すること等の課題が見えてきました。

これらの課題を研究の視点の一つとし、自立した学習者として必要な資質・能力を育てる体育学習を充実させていくこととしました。

3 主要事業

- (1)総会・5月13日 千代田区立富士見小学校
- (2)夏季合同研究会・8月21日 千代田区立富士見小学校
- (3)実証授業・9月～12月 都内小学校
- (4)研究発表大会・2月20日 板橋区立常盤台小学校
- (5)その他・12月5日 世田谷区立経堂小学校

4 研究のまとめ

今年度研究を進めていくことで、子供たちが「自ら学び続ける力」を身に付けていくためには、学びのサイクルを「単元、一単位時間、運動(活動)している時」の3つの視点(3つの学びのサイクル)で考えることが必要であるとわかりました。

(1) 3つの学びのサイクル

- 「単元の学びのサイクル」とは、単元を通して子供が自ら学び続けるための道筋を明確にすること。
- 「一単位時間の学びのサイクル」とは、子供が一単位時間における学習課題を明

確にもって取り組み、振り返りから新たな学習課題を見いだせるようにすること。「単元の学びのサイクル」や「一単位時間の学びのサイクル」は、これまでの「めあて学習」の中でも重視されてきたことである。

○「運動（活動）している時の学びのサイクル」は、以下のように捉えることができた。

- ・子供が運動や活動している最中に、「子供の気付き」と同時に回るサイクルがある。
- ・そのサイクルは、「新たな気付き」を見いだすきっかけとなり、その子供自身の活動の質を高めていく。
- ・この「気付き」が「自ら学び続ける」ための基盤（原動力）となる。

(2) 子供の「学びのサイクル」を回す教師の関わり方

○子供たちの「気付き」を促す様々な関わりを行うことが、「自ら学び続ける力」を子供自身が育んでいけるようにするための「教師の役割」である。

○各領域部会は、「運動（活動）している時の学びのサイクル」の具体の姿を考え、教師が子供の気付きを促す様々な手立てを講じる必要がある。

「運動（活動）している時の学びのサイクル」を全ての子供が回せるようにするために、各領域部会の特性に応じて、子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方、学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞）への教師の関わり方、「自ら学び続ける力」の習得状況の検証等を、明確にすることができました。詳細はホームページの「研究集録」をご覧ください。



80周年記念事業を終えて

80周年記念事業実行委員長
山下 靖 雄

つないでいく出発の機会としていくことでした。たくさんの方々の懐かしい笑顔に出会えた一日となりました。このことは主催者として喜ばしい限りで、幸せな時間を過ごすことができました。役職定年を迎えたこの年に素晴らしい仲間と共に創造性に満ちた記念事業を推進することができたことは私の一生の宝物となりました。これからもこの歴史と伝統のある本研究会が時代のニーズに機微に対応し、創造的な研究を推進し、学校体育の世界の先駆者として益々発展していくことを心より期待しております。「子供を伸ばす小体研、学ぶ喜び小体研」という私たちの大切な理念を常に心の中にもち、後継の皆様にはこの組織を受け継いでいただければ幸いです。

結びに80周年記念事業推進にあたり、協賛会会長をお務めいただきました藤崎敬先生、御支援・御指導を賜りました菅原健次OB会長、協賛会の趣旨に御賛同いただき、多大なる御支援をいただきました東京都小学校体育OB会の皆様方に心より御礼を申し上げます。引き続き、これからの本研究会の発展を見守っていただき、共にその歴史を刻んでいただきますようお願いいたします。なお、当日の式典・祝賀会の様子は以下のQRコードから視聴いただけます。



【各研究領域部より】

多様な動きをつくる運動（遊び）部会

部長 中本 隼介（東久留米・第三小）

本部会では、研究主題の実現に向けて「楽しさのデザイン」「学びの共有」「学習過程」の3点を重点に研究を進めた。

まず、「楽しさのデザイン」では、これまで大切にしてきた「楽しさの散りばめ」を、誰でも再現できる形にまとめる作業を進めた。子供が思わずやってみたくなる活動づくりを意識したことで、子供が自ら新たな動きに挑戦する姿が自然と増えた。

次に、「学びの共有」では、全体・小集団・個別の共有を単元の流れに合わせて整理し、教師がつなぎ役となる場面も明確にした。仲間の動きを見て学ぶ姿が増え、子供同士の関わりも深まった。

最後に、「学習過程」では、〈やってみる→試行錯誤する→振り返る〉という学びのサイクルを、単元全体と一単位時間の流れの中で整理した。教師がどの場面に関われば学びが進むのかが明確になり、実証授業でも子供の試行錯誤が豊かに見られた。

これらの取組により、子供が自ら学び続ける姿が、今年度さらに確かなものとして見えてきた。次年度は、今年度の課題を踏まえ、「楽しさのデザイン」の一般化を目指す。



体の動きを高める運動

部長 岡田 真典（江戸川・上小岩第二小）

本部会は、今年度の研究主題を受け、体の動きを高める運動領域の特性である、一人一人が自らの体の動きを高めるための学習課題を見いだすことは、自ら学び続ける力と関係性があるという考えのもと、その力を育めるように研究を進めてきた。

運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができるようにするために、小学校、中学校の系統性を把握するとともに、ねらいに応じた運動例を設定した。子供たちは、学びを進めていく中で運動の楽しさを味わうことを基盤としながら自身の体の動きを高めることへの喜びを感じることができた。

学びの共有は、子供の必要感に応じて小集団、全体など共有の場や共有のタイミングを柔軟に設定することで、体の動きを高める運動における学び方の定着につなげることができた。また、今年度は、子供の学びを中心とするような共有スペースを設置し学習環境の整備を行った。子供たちは、これまでの学びの足跡を確かめ、運動の行い方を仲間と共有する姿が見られた。

今後も、子供一人一人が自ら学び続ける力を一層高められるように追究していく。



器械運動系

部長 風澤 勇人 (品川・後地小)

本部会では、研究主題の実現に向け、学習環境のデザインと、協働的な学びの促進に焦点を当て、研究を推進した。

第4学年鉄棒運動の実践では、一本の鉄の棒を軸に逆さになったり、体を振ったり、回ったりするなどの、鉄棒運動の多様な楽しさに触れながら、「これならできそう」「やってみよう」と思える学習環境をデザインした。また、子供同士が互いの「できばえを見合い、補助をし合う」協働的な学びを促すため、特に「友達との運動の見合い方」や「運動の補助の仕方」に関する指導を計画的に行った。その結果、事前事後の調査で、学び合いのよさを実感する子供が顕著に増加した。仲間との肯定的な関わりは「もっとやりたい」という意欲を高め、技能向上に有効であったと推察される。

このように学習環境をデザインし、協働的な学びを促すことは、「見通す・実行する・振り返る」という学びのサイクルを子供たち自身が回す原動力になったと分析する。一部に見られた学習が停滞する子供への支援を次年度の課題とし、引き続き研究を深めていきたい。



陸上運動系

部長 崎村 和秀 (大田・道塚小)

本部会では、研究主題に迫るために、学習環境のデザインや教師の関わり方を研究の重点に設定し、1年生の走の運動遊びの学習に取り組んだ。

主な手立ては以下の3つである。

- 1 なわを使い、まっすぐ走ることから始める運動との出会い
- 2 子供がコース(道具の置き方)や遊び方を自己決定できる学習過程
- 3 子供の飽和・停滞の状況に応じた教師の適切な関わり方

実証授業では、かけっこやリレーをする子供が混在する自由度の高い学習を行う中でも、教師が子供の様子を的確に把握し、状況に応じた適切な働きかけを行うことで、子供がコースや遊び方を自己決定しながら夢中になって運動遊びに取り組む姿が見られた。

今回の実践は、子供の実態や教師の経験などによって学習の様相が変わる。先生方が安心して授業に臨めるよう、必ず取り組んでほしいこと、実態に応じて取り組んでほしいことを整理し、ホームページに掲載する予定である。ぜひご覧いただき、授業に取り組んでいただきたい。



水泳運動系

副部長 北川 修司 (東村山・東菽山小)

水泳運動系領域部会では、研究主題を受けて、次の3点を研究の重点として定め、第4学年と第5学年を中心に研究した。

- (1)学習環境のデザインの工夫
- (2)教師の関わり方の工夫
- (3)学習活動の工夫

(1)学習環境のデザインの工夫

学習課題の設定を図る水泳学習支援資料「Swim Master SS」の活用と課題に応じて選択することができる場や補助具を工夫した。

(2)教師の関わり方の工夫

子供を見取る言葉かけ、運動に対する価値付け、学びのサイクルを促進させる言葉かけを工夫して、子供に応じた支援を行った。

(3)学習活動の工夫

単元の導入、今もっている力で取り組む学習活動、子供同士の学び合いを工夫した。

これらの手立てを工夫したことで、意欲的に取り組み、学習課題を修正、改善を図る子供の姿が見られた。

今後、学習資料の精選、教師行動と小集団の分析をし、手立てを充実させていく。



ゲーム

部長 澤 祐一郎 (国分寺・第四小)

研究主題を受け、本部会では、子供が「自ら学習課題を見だし(見通し)、その解決に向けて仲間(友達)と共に試行錯誤し(実行)、振り返りをして新たな学習課題を見出す(振り返り)」という「学びのサイクル」を繰り返すことにより、「自ら学び続ける力」が育まれると捉えた。その実現に向けて、①子供が夢中になるゲームの提案、②子供の主体性を促す教師行動、③協働的な学びを促す手立ての三点を研究の重点として取り組んだ。

実証授業では、子供の実態に応じた「はじめの規則」を設定し、子供たちと規則の工夫を話し合うことで、誰もが夢中になってゲームに取り組む姿が見られた。ゲーム中には、「もっと点を取りたい」「友達と声を掛け合って守りたい」といった思いや願いをもとに、自ら学習課題を見だし、チームの友達と共に考え、振り返りながら次時へとつなげていく姿が表れた。また、教師が子供の学習状況を見取り、「伝える」「促す」「認める」といった言葉かけを行うことで、子供の主体的な学びを促すことを目指した。

今後も、子供の思いや願いを起点とした課題解決的な学びの実現を目指していきたい。



ボール運動

部長 世取山 拓平 (港・港南小)

本部会では研究主題を受け、子供自身が学びのサイクルを回し続けられるようにするための学習環境の在り方として、以下の3点を検討することを重点として研究を進めた。

1. 子供による自己調整を可能とする学習環境のデザイン
2. 学びのサイクルを回せていない子供《飽和・停滞等》への教師の関わり
3. 子供が自ら学び続けることを可能とする学習・評価ツール

実証授業では、ルールを修正したアタックブレールボールを教材として設定し、子供たちは予め決めておいた役割に固執するのではなく、ボールやプレイヤーの状況に応じて仲間と連携してプレイすることができていた。また、検証の結果、子供たちは単元を通して学びのサイクルを自ら回し続けることができていた。一方、「テーマ」についてチームで探究するという視点がチーム内で十分に共有されていない場合、自身が行いたいプレイのみを追求してしまう子供の存在も認められた。

今後、更に検証を進め、今年度行った手立ての効果を明らかにするとともに、来年度の研究の目的を導出していくこととする。



表現運動系

部長 阿部 千春 (足立・梅島小)

昨年度の課題を受けて『自ら学び続ける姿』を追究していくためには、表現運動の楽しさや喜びを味わうために必要な知識及び技能を身に付ける授業展開や表現運動における「イメージや感じ」を広げたり深めたりするための手立てを提案することが必要であると考えた。

そこで、今年度は高学年「表現運動」の授業づくりを通して、①学びのサイクルを子供自ら回し続けるための学習環境として、表したい感じやイメージを膨らませる「イメージバスケット」とよい動きを書きためる「動きの貯金箱」、②学びのサイクルに応じた教師の関わり、③「構成的な踊り」の段階において学習課題を見いだすための活動選択の手立てを講じた。

実証授業では、単元後半の構成的な踊りにおいて、子供自ら学びのサイクルを回し続けながら、踊りを創造していく姿が見られた。また、他のグループの踊りを見に行き、自分たちでは見いだせなかった工夫に気付いたり、その工夫を取り入れたりすることで、より質の高い課題解決をする姿が見られた。

一方で、学びが停滞している子供への教師の関わりに課題も残った。「教師の発問」については、さらに研究を深めていきたい。



保健

部長 水本 恵 (足立・梅島第一小)

研究主題の実現に向け、以下の手立てを考え、連雀学園三鷹市立第六小学校にて第3学年「健康な生活」の実証授業を行った。

1. 子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方
学習資料や学び方を工夫し、子供が自己調整しながら仲間と協力して学ぶ機会を設ける。
2. 学びのサイクルを回せていない子供(飽和・停滞)への教師の関わり方
事例提示や意図的な発問を通して、学びのサイクルを回せるようにする。
3. 保健学習との出会いの工夫
単元を通じた世界観を設定し、子供が楽しく学びに向かえるようにする。
4. カリキュラム・マネジメント
総合的な学習の時間や日常の保健指導、保健活動とのつながりを整理し、保健の授業で育成する資質・能力を明確にする。

実証授業の成果と課題を受け、来年度の重点課題を①別単元での自己調整学習の検証②学習内容及び活動の精選③運動領域と連携した授業づくりとした。



体育的活動

部長 大久保 真実 (足立・伊興小)

本部会では、今年度の研究主題を実現するために、体育的活動における運動遊びの特性(魅力)を以下のように整理した。「子供の自己選択・自己決定の連続」「運動遊びの自由度が高い」「心も体も満足することができる」。この3つの魅力を大切に、活動のサイクルを回すことで自ら学び続ける力を身に付けていくとともに、汎用的な資質能力を養っていく。そして、体育的活動の価値を追求していくことで、体育科と日常的な運動遊びの架け橋としていくことを重点として、以下3点の手立てを工夫した。

- (1)子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方
- (2)活動のサイクルを回せていない子供(飽和・停滞)への教師の関わり方
- (3)体育的活動における楽しさを味わう振り返りの充実

主な研究の成果として、子供のやってみいたいという思いを最大限に引き出すことで、運動遊びを選ぶ、楽しむことができ、活動のサイクルを回すことにつながった。



日本学校体育研究連合会 功労者

功労者表彰

立川市立幸小学校
菊池 修 先生
世田谷区立経堂小学校
青鹿 和裕 先生

板橋区立常盤台小学校
齋藤 一裕 先生
東久留米市立本村小学校
永瀬 功二 先生

体育授業優秀教員表彰

連雀学園三鷹市立第六小学校
吉田 直崇 先生

全国学校体育研究功労者表彰を受けて

立川市立幸小学校
校長 菊池 修

今年度、全国学校体育研究功労者として荣誉ある表彰をいただきましたことに感謝申し上げます。初任の地区から小教研体育部で体育科について勉強を始めました。2校目に異動した学校の校長先生が現在小体連研顧問の岩下和夫先生でした。その時から小体研ボール運動領域部会に所属させていただき、東京都教育研究員や教師道場の助言者等でも、そして常任理事としても学ぶ機会を与えていただきました。これまでにご指導をいただいた諸先輩方にお世話になったことで、自分自身の体育に対する思いと勉強をしていかなければという意欲が高まりました。本当に感謝いたします。今後も微力ではありますが、小学校体育の充実・発展に努めていきます。

全国学校体育研究功労者表彰を受けて

世田谷区立経堂小学校
校長 青鹿 和裕

この度、全国学校体育研究功労者として荣誉ある表彰をいただきましたことに感謝いたします。体育研究との出会いは、初任区の大田区小学校教育研究会における先輩方の授業で子供たちが夢中になっている姿を参観し、自分も教員として体育で身を立てようと思ったのが始まりでした。その後、東京都小学校体育研究会に所属し、多くの出会いとともに、実証授業を通し、たくさんのお話を学ぶ機会をいただきました。現在の自分の礎となっています。一人一人の声が東京都の小学校体育を支え、充実させてきたと思います。今後も微力ながら体育の発展にお役に立てれば幸いです。これまでご指導いただきました諸先輩方、ともに研究に取り組んできた皆様に心より御礼申し上げます。

全国学校体育研究功労者表彰を受けて

板橋区立常盤台小学校
校長 齋藤 一裕

この度、全国学校体育研究功労者表彰という栄えある賞を賜り、身に余る光栄に存じます。私は教員時代、基本の運動部会に所属し、子供たちが夢中になって遊び込む授業を追究しておりました。志を同じくする仲間と共に切磋琢磨した日々が、私の体育研究の原点となっております。その後、指導主事として、体力向上推進事業や多くの学校の体育研究に携わらせていただくなど、得難い経験を積むことができました。常任理事就任後は研究協力校としての機会をいただき、若手の先生方から多くの刺激を受けながら、研究を深めることができました。これまで温かいご指導を賜りました諸先輩方をはじめ、ご支援いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。今後も微力ではございますが、東京都の小学校体育の発展に寄与できるよう努めてまいります。

全国学校体育研究功労者表彰を受けて

東久留米市立本村小学校
校長 永瀬 功二

この度、全国学校体育研究功労者として栄えある表彰を受けることができ、これまでご指導いただいた諸先輩方と共に研究に取り組んできた皆様に、心より感謝申し上げます。教員時代には所属地区の体育部や研究会で運動実技も含めて学び、特に「東京の教育21」で1年間仲間と共に研究に取り組んだ経験は、今でも自分の財産となっています。また、東京都小学校体育研究会の水泳運動系領域部会で研究・実践した「水遊び・水泳運動の授業づくり」は自分のライフワークとなり、その後も各地区の水泳実技研修等で多くの皆様と共に学ぶことができました。今後も微力ではありますが、東京都の小学校体育の発展及び水泳授業の充実に努めてまいります。この度は誠にありがとうございました。

体育授業優秀教員表彰を受けて

連雀学園三鷹市立第六小学校
主幹教諭 吉田 直崇

この度、全国学校体育授業優秀教員として身に余る表彰をいただき、深く感謝申し上げます。私が体育科研究を志したのは、新規採用で赴任した三鷹市立第四小学校で、体育部の先輩に市教研体育部に連れて行っていただいたことがきっかけでした。その後、体育部にいた憧れの先輩方を追って、都小体研ゲーム部に入りました。ゲーム部では、実証授業を行う機会をいただき、また正副部長として部の運営に携わり、教師として、また人間として大きく成長することができました。今後も「子供たちが夢中になる体育授業」を追い求め、精進してまいります。今日までご指導いただいた先生方、そして私に関わってくくださった全ての皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

東京都小学校体育研究会 研究協力校

板橋区立常盤台小学校 校長 齋藤 一裕

1 主題設定の理由

本校の実態として睡眠時間が十分にとれていない子供の割合が大きく、朝食の欠食についても朝起きられない、食欲がわかないといった睡眠不足の影響が見られた。子供が運動、食事、休養及び睡眠の大切さを正しく理解し、自ら健康的な生活スタイルを確立できるようになることは本校の喫緊の課題であった。

このような状況を踏まえ、令和6年度から校内研究の主題を「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習 ～学びの連続性をめざす授業づくりを通して～」とした。全ての教師が協働しながら学びの連続性をめざす授業づくりを行い、子供たちが発達段階に合った楽しい学びや主体的な学びなどを積み重ねていけるよう支援することで、課題の解決や自立した学習者の育成につなげたいと考えた。

2 研究の概要

(1) 学びのサイクルを生かした授業づくり

「自ら学び続ける力」とは、子供自身が仲間と協働しながら自分に最適な形で学びのサイクルを回し続けることであると捉え、課題解決型の授業を展開した。

(2) 小学校6年間を見通した授業づくり

「小学校体育（運動領域）指導の手引（令和4年3月 スポーツ庁）」には小学校6年間分の指導と評価の計画が掲載されている。本手引を参考にしながら、より本校の子供たちの実態に合った学習過程になるよう教材配列等を工夫した。例えば「ゴール型ゲーム」では、単元の前半にルールを簡易化した教材を用意し、誰もが成功体験を味わえるよう配慮した。また、東京都小学校体育研究会の各領域部会の学習資料も積極的に活用した。

(3) タブレットPCを活用した評価活動

協働的な学びにつながる評価活動として、自分たちの動きを撮影して何度も見直したりデジタル作戦ボードを活用して作戦を立てたりできるようにした。個別最適な学びにつながる評価活動として、振り返りの場面でAI機能を搭載した学習アプリを活用した。

(4) 健康的な生活スタイルの確立

保健領域では、規則正しい生活習慣の大切さについて、科学的根拠に基づく理解を深めるための専門的な内容を含む学習の充実を図った。

3 研究の実践

研究授業を行った運動領域について、第1学年から第6学年まで連続した学習過程を作成し、すべての学年・学級で実践した。

(1) 第2学年 ゲーム「鬼遊び」

1単位時間の「めあて」だけでなく、単元全体の学習計画を教室に掲示し、子供が単元のゴールをイメージしながら毎時間の学習に取り組めるようにした。



(2) 第3学年 保健「けんこうな生活」

脱脂綿を使った実験や事前に行った「手洗いチェックシート」の集計結果を提示することで、手洗いの大切さを自分のこととして考えられるようにした。



(3) 第4学年 表現運動「とき小たんけん隊」

恥ずかしがる子供でも空想の世界に没入できるように「〇〇探検」を題材に設定した。子供が即興的に踊れるようイメージスライドなどを活用した。



(4) 第6学年 器械運動「跳び箱運動」

1単位時間の学習の始めと終わりに、自分の取り組んでいる様子を動画で撮影し、自分の成長の過程を振り返り、次時の課題につなげられるようにした。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

○「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果から、睡眠時間が足りていない子供の割合や朝食を毎日食べている子供の割合に、少しずつ改善の傾向が見られた。また、体力・運動能力についても3年続けて向上する傾向が見られた。

○教師の系統性を踏まえた段階的な指導や支援が定着してきた。

(2) 課題

△研究の取組を一過性のものとせず、本校独自の「学びのBASICプラン」として継続、発展させていくことが今後の課題である。

東京都小学校体育研究会 研究推薦校
世田谷区立経堂小学校 校長 青鹿 和裕
研究主題「つなげる、つながる『きょう学』の輪 ～体育科を通して～」

1 主題設定の理由

日常の学習を積み重ね、汎用的に他の学習に生かしていくことはこれからの教育では大切である。学びをどのように自分でつなげていくのか、それを研究の中核に据え進めてきた。そのために3つの「きょう学」として学び方を子供自ら身に付けていけるように考えた。「協学」協働的に問題解決しながら学ぶ。「響学」周囲と関わり影響し合いながら学ぶ。「経学」経験した学びのつながりを生かして意識して学ぶ。このような考えのもと上記研究主題を設定した。

2 研究の視点

- (1)授業づくりの核として「楽しさや喜び」を大切にした授業デザインプラン
- (2)経堂小探究的な学びのプロセス
プロセス1 課題を見だし、把握している⇒プロセス2 課題解決の方法を考えている⇒プロセス3 協働して学んでいる⇒プロセス4 学びを振り返り、次につなげている
- (3)振り返りの充実…目的理解、視点の提示、評価、共有
- (4)学び合いの充実…一人一人が見通しをもち、運動する ・学び合いを活性化する 「聞き方あいうえお」

3 研究実践内容(研究会での授業)

- (1)第2学年 ゲーム (あっちむいてホイッ！)
- (2)第3学年 保健 (けんこうな生活)
- (3)第4学年 ベースボール型 (マイベース)
- (4)第5学年 ゴール型 (3×3バスケットボール)
- (5)第6学年 保健 (病気の予防②)

4 研究の成果と課題

- (1)成果
○子供主体の学習につながることや、探究的な学びのスタイルができつつある。
- (2)課題
○子供たちのよい動きや変容につながる教師の言葉がけを考えていく。

全国学校体育研究最優秀校 (文部科学大臣賞)
江戸川区立船堀小学校 校長 山下 靖雄

1 研究の目的

「子供たちが自らの学習を自らの手ですすめる学習」を目標に掲げ、2年間の体育研究を行った。加えて、令和7年度は、それまでに積み上げた研究を生かして、新たに「自立した学習者を育てる学校」という目指すべきゴールを設定した。6年間を通して「自立した学習者」を学校として育てていくことを目標に掲げた。

2 研究内容及び経過

- 【令和5年度】研究授業8回・研究集録作成
○“授業”を“学習”へと転換する「授業改善」○子供が主体的に学ぶための「ICT活用」
○教師の「指導観」の転換 ○運動の楽しさを味わう「学校環境」の改善
- 【令和6年度】研究授業8回・研究発表会
○子供の学びでつくる体育学習－自己の「学習課題」と、子供を主語にした「学習過程」－
○教師の「指導観」の転換 －子供の学びの姿を根拠にして、見方・考え方で学びを繋ぐ－
○運動と体育で子供を育てる「学校づくり」－「船スポタイム」と「ストレッチタイム」
- 【令和7年度】研究授業6回・指導計画の再編
○体育学習のbrush up－「学習課題」を見だし、子供がデザインする「学習過程」へ
○「見方・考え方」で繋ぐ体育学習－6年間の学びを「線」にして、横に縦に繋いでいく
○教師が体現する“自立した学習者”－チームでつくる、教師が主体的に学ぶ校内研究－

3 研究の成果

- (1)教師の指導観の転換
指導観が変容し、「学習課題」や「学習過程」を意識した指導を目指すようになった。
- (2)児童の学びの変容
学習課題を意識した学びを展開し、一人一台端末や友達との関わりの中で課題解決を目指すようになった。
- (3)体力の向上
令和6,7年度の2か年にわたり、体力合計点が全学年で全国平均を上回った。

詳しい研究内容は右の二次元コードを参照してください。



【各地区の体育研究の概要】

墨田区

体育部長 山崎 隆

墨田区立小学校教育研究会体育研究部では、「子供一人一人が運動することの楽しさを味わうとともに、運動学習の質を高める体育学習の実現」を研究主題として研究を進めてきました。年度当初に東京教師道場経験者による示範授業を行い、研究のイメージを共通理解しました。区内25校を三つのブロックに分け、第2学年表現リズム遊び、第6学年体づくり運動及び陸上運動において、児童一人一人が自己の学習を振り返り、学びを深めるための手だてを工夫して授業を行うことで、児童が試行錯誤を重ねながら、自己の運動についての課題をよりよく解決していける体育学習の充実に取り組みました。今後も、指導法の研究を通して授業の質の向上と体育学習の充実を図っていきます。

江東区

体育部長 飯川 浩二

江東区立小学校教育研究会体育部では、研究主題を『自ら課題を解決する体育学習 ～運動の楽しさや喜びを味わうことを通して～』、運動領域を体づくり運動として研究を進めました。今年度は低・中・高のそれぞれの部会で研究の自由度を高め、新しいことに挑戦できる研究方法に変更し、目指す児童像と児童の実態とのズレから具体的な手立てを考え、検証する「仮説生成型」で取り組みました。授業後の協議会は各分科会の部員が必ずグループに入り、協議を活性化させました。

また、小体研の各部員の協力をいただき、6月には保健領域の研究授業、夏季休業中には実技研修会を5日間開催しました。これらは体育部以外の教員の参加率も多く、研究を深めることができました。感謝申し上げます。

品川区

体育部長 三浦 公平

本区では、令和6年度より研究主題を「児童・生徒が自ら学び続け、仲間と関わり合いながら学びを深めていく体育学習」と設定して研究に取り組んでいます。

今年度は、陸上運動系領域・陸上競技に絞り、「義務教育9年間の系統性を意識し、陸上運動系領域・陸上競技の学習において、『自ら学び続ける力』や『仲間と共に学ぶ力』を高める体育学習の在り方を明らかにする」ことを目的に、小学校3分科会と中学校2分科会を組織して、基礎研究・調査研究・実践研究を行いました。「探求」と「創造」のプロセスが一体となった一連の研究活動を行っています。今後も体育部員の学びを深めるとともに、品川区の体育学習の充実につなげられるよう研究活動を進めてまいります。

国立市

体育部長 牧野 陽一郎

国立市では、小・中学校合同で授業研究を進めています。研究主題「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進－具体的実践から考える体育科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」とは－として、研修に取り組んできました。市内小学校の数は8校で、体育部員は25名です。4校ずつの分科会A、Bとし、各分科会において提案授業を実施しました。

A分科会では、9月に第6学年ボール運動ゴール型「バスケットボール」に、B分科会では第2学年ゲーム鬼遊び「宝運び鬼」に取り組みました。定例部会以外に、臨時部会も開催し、提案授業当日は中学校体育部員も参加し、活発な授業研究会となりました。

羽村市

体育部長 茅 尚仁

羽村市教育研究会体育・保健体育部は、研究主題を「運動に主体的・協働的に取り組む児童・生徒の育成」とし研究を進めてきました。また、羽村市では小学校と中学校での合同の研究会としており、9年間を見通し、より深く研究ができるようにしています。

今年度は、①ボール運動（ネット型）【中学校】②陸上運動（走の運動遊び）【小学校】③器械運動（跳び箱運動）【小学校】の計三回の研究授業と外部講師をお招きし、走・跳・投の運動の実技研修を行いました。研究授業の協議会では、中学校の視点も交え、運動特性の観点も踏まえた議論ができました。

来年度も、小学校・中学校での研究を行い教科の特性に応じた研究を進めていきます。

あきる野市

体育部長 内堀 敏治

あきる野市教育研究会体育部では、運動の楽しさを実感し、課題解決的な学習に取り組むことができる児童を目指し、研究主題を「楽しい・わかった・できた」体育学習とし、研究を積み重ねてまいりました。研究主題に迫るために、「運動の特性」、「三つの資質・能力の関係性」、「見方・考え方」の三つの柱を立て、授業改善に努めました。今年度は、5年生の走り高跳びの学習の単元導入時の指導について検証しました。3学期は、跳び箱運動の検証に向けて、準備をすすめています。また、本市では小中一貫した体育指導について理解を深めるために、年1回の小中学校合同の授業研究会を行っています。今年度は中学3年生のマット運動の実証授業を通して、小中高の接続を確認しました。

東京都小学校体育研究会へのご意見・ご質問をぜひお寄せください。

